

都市再生整備計画 事後評価シート  
富士宮駅周辺地区

平成30年2月

静岡県富士宮市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	富士宮市		地区名	富士宮駅周辺地区			面積	276ha		
交付期間	平成26年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	367百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 【道路】1級市道神立立宿線、一般市道宮町11号線、一般市道大宮町23号線 【公園】(仮称)浅間町公園 【地域創造支援事業】浅間大社前景観形成事業 【事業活用調査】事業効果分析調査										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-			削除/追加の理由			-				
	新たに追加した事業	基幹事業	-			-			-				
		提案事業	-			-			-				
	交付期間の変更	当初	平成26年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
		変更	-		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	中心市街地の歩行者数	人/8h/2日	4,803	H25	4,800	H29	-	3,340	×	あり ● なし	地区内3箇所で行った歩行者数の計測を行った。関連事業の富士山世界遺産センターが建設中であり、回遊性の向上が見込めにくかったため、目標値を達成できなかった。しかし、今後は、本地区に人を呼び込む富士山世界遺産センター開業により、本計画で実施した事業の効果が更に発揮されるものと考えられる。	-
	指標2	来訪者の滞留時間	分/日	82	H25	93	H29	-	111	○	あり なし	地区内の歩行者に直接、聞き取りアンケートを行い、滞留時間の調査を行った。本事業により、公園、安全な歩道など、滞留する空間が増加したことから回遊性も高まり、滞留時間が増加したのと考えられる。	-
指標3	市民満足度	%	28	H25	34	H29	-	31	△	あり ● なし	本事業により、まちづくりの課題である「歩いて楽しいまち・世界遺産にふさわしいまち」の基盤整備が強化され、住民アンケート調査結果においては「満足」と「ほぼ満足」を合計した人の割合が増加したことは確認できたが、目標値は達成できなかった。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	富士山世界遺産センター開業後の中心市街地の歩行者数	人/8h/2日	4,803	H25	/	/	-	7,696	/	/	関連事業の富士山世界遺産センター開業後に工事中であった定点を再調査した結果、目標値を上回る歩行者数が確認できた。これは、各事業の総合的な整備効果が発揮されたものと考えられる。	-
その他の数値指標2	富士山浅間大社周辺の景観(街並み)についての市民満足度	%	-	-	/	/	-	42	/	/	別途、他課で実施した住民アンケート調査では「世界遺産のまちづくりについて」という設問の「富士山浅間大社周辺の満足度」の項目で「景観(街並み)」の満足度が高いことを確認した。	-	
4)定性的な効果発現状況	1級市道神立立宿線の整備により、歩行者の安全性が確保され、地域住民からも「車も歩行者もより安全になった。新しい西への玄関口ができた。」と評価されている。道路脇には「富士宮市歩く博物館」に指定されている道祖神があるが、歩道から安全に見学できるようになった。整備した浅間町フレンドパークは、地元自治会と市が管理協定を締結し、協働で維持管理が行われている。 ※(仮称)浅間町公園は、浅間町フレンドパークとして供用開始しました。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	・宮町商店街では、新規イベントとして、まちなかの回遊を目的とする、宮町まつりを3回実施した。 ・神田川ふれあい広場では、湧水のイベント「富士山水まつり」を平成28年度から実施している。 ・雨天中止となったが、浅間町フレンドパークでは、市民団体が主催する「食によるイベント」が計画されるなど、公園の利活用が見込まれていた。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・浅間町フレンドパークでは、食のイベントを平成30年度に再度実施する計画であり、市民団体や市のイベントとしての活用も図る。また、近隣観光施設、民間の公園、神田川駐車場等との連携も図ってきたい。 ・神田川ふれあい広場の「富士山水まつり」は平成30年度も実施予定である。 ・浅間大社東側では、市のプロポーザル事業により民間事業者が平成31年度にブルワリーレストランを開業する予定である。						
	持続的なまちづくり体制の構築	市と商店街が沿道に花を設置する「花いっぱい」のまちづくり事業を今年で行える体制を構築し、富士山世界遺産センターのオープンまでに事業を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・「花いっぱい」のまちづくり事業を継続させる。 ・観光ガイドボランティアの案内範囲を、浅間大社だけでなく、富士山世界遺産センターから東西方向の横軸に向けても拡大する体制を検討し、観光客の回遊性を向上させたい。 ・宮町まつりを開催している宮町商店街と他商店街が合同で歩行者天国を実施できる体制を検討する。						

様式2-2 地区の概要

富士宮駅周辺地区(静岡県富士宮市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:世界文化遺産富士山の門前町の歴史と文化を活かした歩いて楽しいまちづくり 目標1:中心市街地の拠点である浅間大社等の周辺の道路整備・景観整備を行う事で、潤いある歩行者空間をネットワーク化することにより、歩いて楽しいまちを創出する。 目標2:世界文化遺産である「富士山」への玄関口であり、構成資産である「富士山本宮浅間大社」の門前町にふさわしい歴史と文化を活かしたまちを創出する。	【指標1】中心市街地の歩行者数	単位:人/8h/2日 4,803 H25	4,800 H29	3,340 H29
	【指標2】来訪者の滞在時間	単位:分/日 82 H25	93 H29	111 H29
	【指標3】市民満足度	単位:% 28 H25	34 H29	31 H29
	【その他の数値指標1】富士山世界遺産センター開業後の中心市街地の歩行者数	単位:人/8h/2日 4,803 H25		7,696 H29
	【その他の数値指標2】富士山浅間大社周辺の景観(街並み)についての市民満足度	単位:% -	-	42 H29

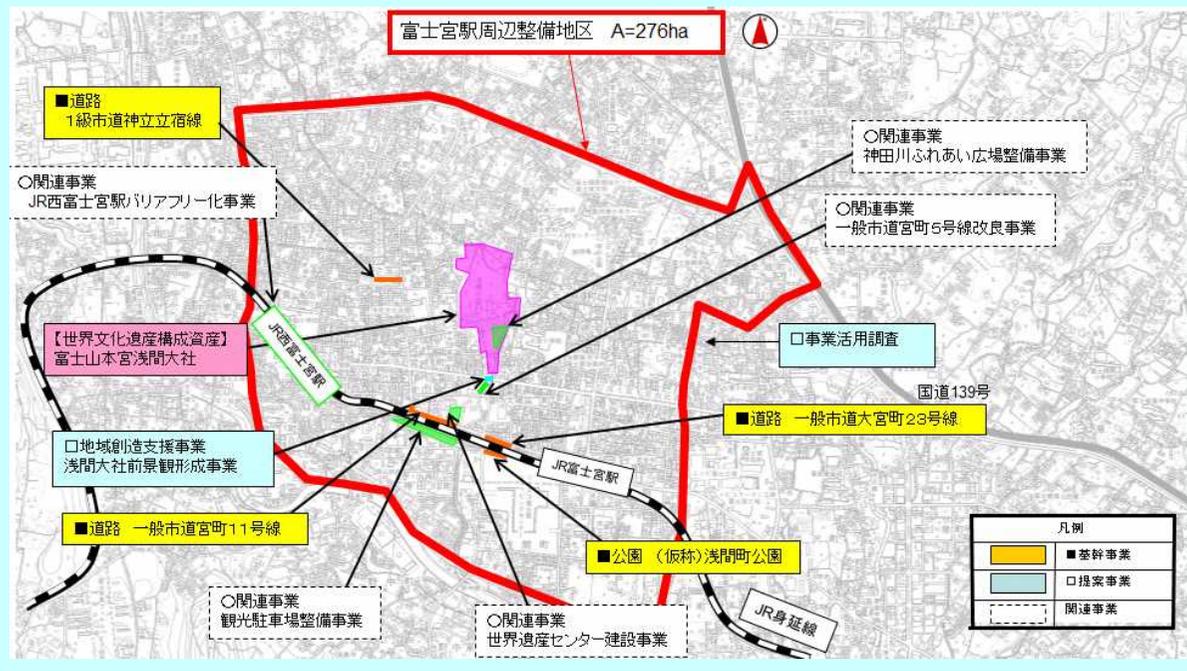
■基幹事業【道路】  
1級市道神立立宿線



■提案事業【地域創造支援事業】  
浅間大社前景観形成事業



■基幹事業【道路】  
一般市道宮町11号線

■基幹事業【道路】  
一般市道大宮町23号線



■基幹事業【公園】  
(仮称)浅間町公園



■関連事業  
世界遺産センター建設事業



まちの課題の変化

- 課題1「歩いて楽しいまちを創出するための拠点整備・空間整備」の達成状況については、歩行者専用道路等の整備により歩行者の安全性が確保され、市民満足度アンケート調査でも「住民が歩いて行きたくなる施設やイベントがある」「憩いの場となる公園などの施設がある」という設問について、従前に比べ満足度の向上が確認された。
- 課題2「湧水を活かしたまちづくり」については、浅間町フレンドパークや神田川ふれあい広場の湧水池設置により、目に見える湧水として活用され、市民満足度アンケート調査でも「湧水を活かしたまちづくりができている」という設問について、従前に比べ満足度の向上が確認された。
- 課題3「世界文化遺産のある歴史と文化を活かしたまちを創出するための富士山信仰関連の保全・整備」については、浅間大社前景観形成事業により商店街のアーケードを撤去して良好な都市空間を創出し、市民満足度アンケートでも「世界遺産を活かしたまちづくりができている」という設問について、従前に比べ満足度の向上が確認された。また、平成29年12月23日には、富士山世界遺産センターも開業した。
- 市民満足度アンケート調査の自由意見では、道路整備、商店街の活性化、水環境の保全についての課題が多くあげられていた。注目される課題は、富士山の見える景観整備、カフェや土産店等の出店、ベンチ等休憩施設の整備、外国人向けの案内サイン整備促進、夜間の灯り整備、湧水の活用、イベントの情報発信拡大等がある。
- 今後は、更なるまちなか滞留空間整備や景観整備等のハード施策、集客誘致等のソフト施策により、富士山世界遺産センターから富士山本宮浅間大社の南北軸をベースに、東西軸への回遊範囲の拡大を図り、「長く楽しく滞在するまち」を創出する必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 富士山世界遺産センターの開業後、観光客が増加しているため、新たな「たまり場」づくり、電線地中化、神田川のライトアップ等の修景施設整備を行い、昼も夜も魅力的な滞留空間の充実を図り、宿泊施設の誘致、民間飲食施設の出店により、長く楽しく滞在するまちを創出する。
- 富士山世界遺産センターの開業により、駐車場待ち等による渋滞が土日等に発生しているため、イベント時を想定した駐車場混雑時の迂回誘導方策を検討し、市街地の渋滞緩和を図る。
- 市道の見通しが悪い箇所、事故多発箇所、歩道未設置箇所等の道路改良や歩道整備を進め、更に安全・安心な交通環境を創出する。
- 商店街のイベントを支援し、中心市街地の東西軸に集客施策を行い、まちなかの活性化を図る。